

【第5回松戸市都市公園整備活用推進委員会】議事録

日 時：令和元年5月28日（火） 午前10時~11時45分

場 所：松戸市役所新館5階市民サロン

出席委員：9名（別紙名簿のとおり）

欠席委員：2名

事務局：街づくり部審議監、公園緑地課長、公園緑地課課長補佐、
21世紀の森と広場管理事務所長、所長補佐、街づくり課課長補佐 他6名

傍聴者：2名

議 事

1. 昨年度の審議経過について
2. 21世紀の森と広場の利用者アンケートの実施について
3. 21世紀の森と広場の現在の管理システムについて
4. 最終答申までのスケジュールについて
5. カフェテラスなどの便益施設の事業者募集結果について
6. その他

配布資料：議事次第、出席状況、第5回委員会資料

第5回議事録署名人：安孫子委員、佐藤委員

議事内容

1. 昨年度の審議経過について

【事務局】

今回は今年度最初の委員会であり、前回委員会から日が経っているため、具体的な審議を進めていただく前に改めて昨年度の主な審議経過について説明する。資料1ページでポイントとなる内容を赤字で記載している。

本委員会は、松戸市都市公園整備活用推進委員会条例に基づき、平成31年7月12日に本郷谷市長より皆様に委員の委嘱を行い、同日第1回委員会を開催した。第1回では委員長、副委員長の選任、諮問事項についての説明、委員会の進行方法として部会設置の方針をご審議いただいた。

第2回委員会は平成30年7月30日に開催し、21世紀の森と広場に対するご意見を頂いた。また、4つの部会の設置をご承認頂き、パークマネジメント戦略検討部会、遊び空間検討部会、サービス水準向上検討部会、ゾーン別保全方針見直し部会の4つの部会を設置した。4部会とも9月19日に第1回の部会を開催した。その後、中間答申に向けて遊び空間検討部会は2回、サービス水準向上検討部会は1回開催し、部会からの報告案をまとめた。

10月22日の第3回委員会では、各部会から審議内容を報告していただき、中間答申の

案をご審議いただいた。第3回委員会で委員長預りとなった中間答申については、委員長と事務局にて案を作成した後、皆様に内容をご確認いただいたうえで、11月7日付で事務局にて受領した。その後、12月16日に21世紀の森と広場において、委員長、副委員長より本郷谷市長に手交していただいた。

中間答申後、第3回委員会においてパークマネジメント戦略検討部会からご提案いただいたパークマネジメントプランの策定についての審議を進めるため、平成31年2月1日に第2回のパークマネジメント戦略検討部会を開催し、今後の審議の方向性をご検討いただいた。

2月20日開催の第4回委員会(前回)において、パークマネジメント戦略検討部会より、新たなマネジメントシステムの構築とシステムの具体的な戦略としてのパークマネジメントプランの策定を委員会にご提案いただいたところである。

【質問等無し】

2. 21の森と広場の利用者アンケートの実施について

【事務局】

第2回パークマネジメント戦略検討部会においてご議論いただいた内容を踏まえて、事務局にて調査票の案と調査方法を検討した。今回の委員会で皆様よりご意見をいただき、利用者アンケートを実施したいと考えている。

調査票案は、アンケートの集計結果を他の同種公園と比較できるようにするため、国土交通省が実施している「都市公園利用実態調査」と同様の項目を設定した他、21世紀の森と広場における課題を整理するため、独自の項目も設定した。調査の状況は随時委員会に報告し、パークマネジメントプランの検討に反映していきたい。なお、アンケート調査と集計は、委託業務により実施する予定である。

【委員】

問7の選択肢4と7が同じになっている。問3の選択肢4は「自動車」ではなく「自家用車、タクシー」としてはどうか。問4と問8は時間に関する設問だが、4では5分以内の選択肢があるのに対して8では15分以内となっているので、選択肢の書き方を合わせた方が良いのではないか。問6の選択肢1は「近い」となっているがどこから近いのかが書かれていない。

全体を見ると質問が多いので分かりやすくした方が良い。アンケートを事前にやってみたが、問10、11は答えるのに考える必要がある内容なので時間がかかる。子ども連れの利用者に答えてもらうには時間はかからない方が良い。問13は何を求めているのか、主題が明確でないので、広く一般に伝わる内容にした方が良い。問16の図は一般利用者には分かりにくい。イラストにするなど工夫が必要。

【委員】

国土交通省が行っている都市公園利用実態調査と比較するために内容を合わせたとのことだが、どの項目と比較するかが分かればいいので、表現は分かりやすくした方がよい。

【委員】

難しい内容の設問が多いため、小学校1～3年生が答えるには難しいのではないかとヒアリングしないと答えづらいと思う。

【委員】

問6の選択肢2に「交通の便が良い」とあるが、この公園は交通の便が良くないことは利用者にとって共通認識だと思う。この公園にはなじまない選択肢だと思う。

【委員】

国土交通省の都市公園利用実態調査では全国の公園を対象としているので、それに合わせるとこの公園に合わない内容であったり、子どもには答えづらい内容も入ってしまう。ただ、国の調査は聞き取りによる調査なので、子どもでも応えられるようになっている。聞き取り調査であれば、問16も調査員が聞き取って書き込むことで調査可能になる。明らかに選ばれないような選択肢は議論の余地があり、必ずしも全国調査の内容に縛られる必要は無いと思う。

【委員長】

調査の内容を21世紀の森と広場に合わせる必要があるかという点と、聞き取りによる調査が可能かという点が大きな問題として挙げられる。資料記載のとおり事務局では配布・回収による調査を考えているようだが、聞き取り調査でないと難しい内容が含まれているので、調査票を大きく変える必要がある。どのように改良したら良いか、ご意見をいただきたい。

【委員】

配布、回収で調査を行うのであれば考えた方がよい。問16など図が見えづらく、これではパークセンターの位置も分からない。

基本的には国の調査と同じだと思うが、例えば問10以降では国の調査とどのように違いがあるか。

【委員】

問10以降のうち問15のみ国の調査と共通の内容で、その他はオリジナルとなっている。国の調査では、公園に望むものなど一般的な内容があったりする。共通の設問でも選択肢を一部端折っているものもある。

【委員】

「交通の便が良い」のように明らかに選ばれない選択肢でも、選ばれないことでやっぱり悪かったと分かるということもあると思う。

問13の2の「公園の魅力を人に伝える」などは具体的でなく分かりにくい。また、既にやっている人にとっては答えにくい設問になっている。問13はやっているかどうかだけでなくモチベーションに関する内容でもあるので、重要だと思う。1と4はイベントや講座に関する内容なので、1が「参加する」であれば4は「企画・運営する」とすれば比較できるようになる。4のような例示はあっても良いが、シンプルにしてもいいのではないか。やってみたいことだけでなく既にやっていることを書いてもらおうと、想定していない答えが返ってくることもある。

【委員】

既にやっていることややってみたいことを書いてもらって、そこから枝分かれする設問にしてもいいと思う。

【委員長】

問13の中で市が既に行っているものはあるか。

【事務局】

行政として実施している。

【委員長】

21世紀の森と広場に合わせて内容をアレンジする必要があるという指摘であった。調査方法についても、事務局案の「入口での配布、回収」では子どもやお年寄りがこれだけの量を全部読んで回答することは大変だと思う。今回委員から出た意見を整理して、事務局で再度アレンジしていただきたい。委員の皆さんには、アドバイスをお願いしたい。

3. 21世紀の森と広場の現在の管理システムについて

【事務局】

前回の委員会におきまして、新たなマネジメントシステムの検討にあたっては、現在のシステムを整理した方がよい、というご意見を頂いたことから、現在の管理システムについて整理した。21世紀の森と広場管理事務所を中心に、施設管理やイベント等におけるお金や事務の流れを示しており、塗りつぶして白文字の矢印がお金の流れを表している。本公園の管理費用は市の一般会計の歳出予算から支出している。また、カフェテラス等の事業者から徴収する公園使用料や駐車場利用料は、歳入予算に含まれている。公園主催イベントの部分は、イベント実行委員会を組織して実施しており、実行委員会の事務局を管理事務所で担っている。公園施設の管理は、主に業務委託、ボランティア、職員による直営

により実施している。今後新たなシステムを検討するうえで、キーとなる部分や改善すべき点などのご意見を頂きたい。

【委員長】

現状の管理やお金の流れが整理されているが、新しいシステムを考えていくうえでご意見、ご質問などがあればお願いしたい。

【委員】

市のイベントに関わっているが、市役所の内部で連携がうまく働いていないと感じる。現状でも庁内で連携しているかもしれないが、例えば、博物館に行っても森のホールでその日に何をやっているかが分かり、森のホールにも行ってみようと思わせるような連携が無い。利用者に各施設を回遊させるような連携の仕組みを入れてほしい。利用者が必要とする情報を得られるような連携が必要。

【委員長】

具体的にネックと感じている部分はあるか。

【委員】

博物館に来る人は博物館が目当てになっていて、管理者側もそれを前提とした対応になっている。利用者目線で見たい情報提供の仕方があった方が良い。各施設に友の会のようなものがあると思うが、エリア全体の友の会のようなものがあり、そこからの声が反映されるような仕組みがあると良い。

【委員】

業務管理としては分かりやすい図だが、利用者目線に立った全体の運営管理と言う点では強化が必要だと思う。この図には利用者目線が欠けている。博物館や森のホールも含めた全体で長期、中期、短期で計画を立て、日々の運営のクオリティを高める仕組みが必要。そのためには全体を仕切る責任者、部門が必要で、各施設は連携ではなく一体でなければならない。

【委員長】

例えば博物館のチラシであれば、博物館に来る人を目的として博物館利用者にとって必要な情報を博物館が提供しているが、そこには他の施設の情報は含まれていないのではないか。施設ごとでは十分でも、他の施設も含めて広く知らしめるという点では不足している。

【委員】

この図でお金の流れは見やすくなっているが、マネジメントやシステムを表すものではな

いと思う。管理事務所の職員がどう動いているのか、管理の責任はどこか、企画・運営を担う管理運営のチーム間の連携などが入ると全く違う図になるのではないかと。

施設管理の中にボランティアが含まれているが、施設管理に含むものではないと思う。市民からの目線が入っておらず、協働の流れが見えない。また、色々なところにイベント運営が入っているが、他者がやってみたいと企画するイベントもあるのではないかと。

【委員】

全体の管理、クオリティの評価をするマネージャーが誰なのか分からない。事件、事故等ネガティブな点も含めて、日々の責任管理体制は整理する必要がある。

【委員】

この資料は、新しいシステムを作るための前段階として、現状を整理して今後どう強化、改善していくかを見えるようにするためのものだと理解している。皆さんから出た意見を基に、「こう変えていきます」となればいいと思う。この図も違った見方をすると、博物館や森のホールの表し方などに管理事務所の意識が表れていると思う。ボランティアの扱いなども変わってくれば、図の表し方も変わるのではないかと。この図が現状を表しているので、これをどう改善していくべきかが分かると思う。

【委員長】

次のステップにどうつなげるか、例えば森のホールとの間で連携と書かれているが具体的に何をするのか、どこをどう変えていくか、という意見をいただき、次の検討に進んでいきたい。

【委員】

市役所の組織という点では、管理事務所、博物館、森のホールはそれぞれ部が異なっているので、エリア全体を総括して縦割りの組織を横断する手段がまず必要。イベント実行委員会でそれぞれ情報交換をしているが、特別なイベントの時だけであり、エリア全体を一体的に、一つのかたまりとして良くしていくような組織作りは必要だと思う。それが具体的に何か、皆さんからご意見をいただき、庁内で話していければと思う。

【委員】

主観ではあるが、市のイベントで成功している例は市民が勝手にやったものをフィードバックした形の方が多く、市役所が枠組みを作ってもだいたい上手くいっていないと思う。組織が変わればいいのはもちろんだが、民間が入りやすい環境を作り、民間が勝手に始めた時に行政が支援するような仕組みがあると良いと思う。

【委員】

都立公園の指定管理業務を行っているが、民間が入ることで柔軟な対応がしやすくなっていると感じている。ただ、民間が入れば柔軟な対応ができるというわけではなく、西東京市での指定管理業務では、公園を管理する課の中に協働担当を置いており、指定管理者側にも協働担当を置くよう求めている。お互いに入口があるだけで動きやすくなる。少し仕組みを変えることでできることがあると思う。

【委員】

一般の市民が公園を活用したいと思っても、誰にどう相談したらいいかわからないのではないかと。そういった動きを取り入れやすくするために、マネージャーのような人を置くといったことから始めていくことが大事だと思う。

【委員長】

職員自ら行う直営管理と、管理許可、行為許可などで外部に任せる管理に分かれているが、事務所の限られた人員の中でこれだけの直営管理を行うのは大変だと思う。実際はどうか。

【事務局】

管理許可や委託業務、行為許可をしているイベント実行委員会についても、コントロールするという点では記載している業務のほとんどを管理事務所の職員が管理しており、大きなウエイトを占めている。

【委員】

自然を守ることが求められていたところから、この数年は利用者を増やすことが求められるようになったが、公園を管理することと利用者に満足してもらうことの両方を求めるのであれば、そういう体制を作らないと続けていけないと思う。管理を担う人だけでなく運営を担う人や組織も必要。今は21世紀の森と広場の過渡期にあるため、根本的な組織の在り方を考える時だと思う。持続可能な管理運営ができるような、人とお金の現実の問題として行政にも考えてほしい。

【委員】

市役所内部で公園の利用者を増やすことが求められていて、それに対して職員が直営で対応している状況である。求められることが増える中で、これまでなかった組織としてイベント実行委員会が市役所の外にできた経緯があり、これまでの業務に加えて職員の負担が増している部分である。市民のニーズが増えているので、それに対応できるように、専門の方のアドバイスをもらいながら運営するような組織が必要になってきていると思う。

【委員】

利用者のニーズが多様化しており、指定管理業務の中でも部署を作ったりマネジメントの仕方を考えて実施している。行政の組織の中で、時代と共に変わっていく公園の管理を行っていくのは難しいと思う。マネジメントの仕方は、他の事例を調査・分析して、参考になるものを取り入れていくような客観的な姿勢が必要だと思う。

【委員】

他の事例と言えば、山口県宇部市のときわ公園の例がある。宇部市ではときわ公園を市の観光の核として位置づけ、公園単体で局を作って再整備などを実施した。現在ではときわ公園の組織は観光の部署に含まれており、整備は公園の組織が行ったが、運営は観光や協働といった違う部署が行っている。市がバックアップして色々変えながら実施している例である。それを担保するために、マネジメントプランのようなものを2回策定するなどしている。

【委員】

管理事務所の限られた人員の中で、イベント運営や管理をやっているということが分かった。その中でカフェテラス等の施設も管理していくというのは無理がある。どこかでポジショニングをはっきりさせる必要があると思う。

【委員】

今後どう展開していくかという点で、イベントが入ることでごちゃごちゃしている。システム全体の管理運営の構図を作ったうえで、その中のイベント実行委員会や博物館、森のホールなど全体をチェックする役も必要ではないか。運営の流れとイベントの流れを分けた方が分かりやすいと思う。

【委員長】

国からは公園を使いこなすことが求められているが、使いこなして満足を得られるような施設は大事にしないといけない。そういう施設が無ければ新しい施設の導入が必要だが、新しい施設を造るのは難しいので、既存のストックを活かしてソフトウェアをどう絡めるか、という流れが見えてくる。誰がどう使うか、周りにどう仕掛けていくか、という点で意見をいただきたい。

【委員】

パークマネジメントを考える時には、公園だけで考えるはいけない。森のホールや博物館はもちろん、市全体にエリアを広げて考えなければならない。一体的にする工夫として、例えば、一帯を21世紀の森と広場とし、その一つとして博物館や森のホールを位置づけて「21世紀の森と広場の〇〇」と呼ぶなど、一体のものと認識してもらおう工夫をする。

意識づけすることで、空間を変えずに協働のきっかけにする、ということも考えられる。

【委員】

府中市にある府中の森公園では、周辺に美術館や芸術劇場、生涯学習センターなどの施設があり、それぞれ管理者が異なっているが、一緒に盛り上げようということでエリアで名前を付けてチラシを作成したりイベントを実施したところ、相乗りする施設が増えて連携が広がっていった。エリアで見た取組は効果があると思う。

【委員】

アメリカにおいてディズニーとユニバーサルスタジオは競争関係にあるが、シナジー効果を高めて南カリフォルニアに人を呼ぼうという活動をしている。21世紀の森と広場でも、博物館や森のホールも含めた大きな視点で捉え、リピーターを獲得するために施策を見直していく必要がある。今は行政に管理されている公園だが、市民が楽しめるような市民ベースの運営、周辺とのシナジー効果を高めることが大事。

【委員】

総合医療センター内のアート系のデザインは、21世紀の森と広場を意識したものになっており、第六中学校の生徒の作品と聞いた。皆さんが思っている以上に21世紀の森と広場は周囲に影響を与えているのに、連携や情報共有がなされていないと感じる。総合医療センターのように実際に取り入れられているものもあるので、ちょっとした取組みでも変わるのではないかと思う。

【委員長】

オーストラリアのロイヤルアデレードホスピタルでは、公園と一体化したデザイン、機能で作られている。一体化を考えるときには、機能連携という点で具体的に踏み込んだマネジメントが必要。オーストラリアでは健康と公園の一体化に取り組んでいる。シナジー効果が呼び水になるのではないか。

【委員】

21世紀の森と広場の周りには病院の他にも介護施設や幼稚園などがあると思う。そういった施設との連携も一つの方法だと思う。外に働きかけていくためには、相応のポジションや組織を作っていくことが必要。

【委員】

利用者アンケートを実施するのであれば、協働の入口となる部分を盛り込んで、市民の声を集めながら考えていっても良いと思う。今回多くの意見が出たので、集約して反映させてほしい。

【委員長】

今回出た意見を反映させるとすごく良くなると思う。市民ニーズも、現在のニーズだけでなく将来に対するニーズを含めて、将来をイメージしてもらえそうなアンケートになると良い。

【委員】

持続可能で発展可能な体制を作ることが必要。今の体制では無理があり、相応の体制を作る必要があることも言っていかなければならない。システムとセットで組織の問題も打ち出してほしい。

【委員長】

ここまで多くのご提案をいただいたが、事務局として前向きに受け止めていただけるか。

【事務局】

ご提案をいただくことも本委員会の目的の一つと考えている。行政だけで組織を根本的に変えていくのは難しい部分もあるが、全国の様々な管理の事例を参考にし、委員会と話し合いながら進めていきたい。

最終的に答申をいただくが、答申の内容は実現することを前提に考えているので、できることとできないことをすり合わせながら進めていきたい。

【委員長】

前向きな意見を多くいただいたので、今後各部会で掘り下げて検討を深めていくこととしたい。

4. 最終答申までのスケジュールについて

【事務局】

本委員会の任期は令和2年6月までとなっており、任期終了と合わせて最終答申を頂く予定になっている。最終答申が約1年後に迫っていることから、最終答申までの行程を共有させていただきたく、委員会、部会の行程案を作成した。今年度の委員会は四半期ごとに1回の開催を想定している。部会は合計16回を4つの部会で平均して4回ずつに分けて記載しているが、各部会の回数は審議の状況に応じて柔軟に対応する。

また、各回に記載している内容は、最終答申までに検討が必要と考えられる内容を事務局にて記載したものであり、今後の審議の経過により変わっていくものと考えている。

【委員】

ゾーン別保全方針見直し部会の外来生物対策以外の検討事項は何か。外来生物対策が事務局として優先して検討してほしい内容ということか。

【事務局】

外来生物対策は委員会の審議事項の一つであるが、各部会は他の部会と関連する内容があることから、記載している事項にとらわれずに幅広く議論していただきたい。

【委員】

保全と活用のバランスの検討は多くの時間がかかるので、内容を絞らないといけない。特にどういう議論をするか、事前に事務局と一緒に検討した方がいいと思う。

【事務局】

内容については事前に調整させていただきたい。

【委員長】

各部会での検討は、最終的にはパークマネジメントプラン、体系づくりに結びつくものであるとご理解いただきたい。

5. カフェテラスなどの便益施設の事業者募集の結果について

【事務局】

前回の委員会で報告したとおり、中間答申を受けて、資料のとおり募集要項を改善し平成31年度から3年間の事業者募集を行った。応募状況は、カフェテラス1者、野外体験施設2者、里の茶屋1者があり、カフェテラスは、株式会社東京フードサービス、野外生活体験施設はティ・ワイ開発株式会社、里の茶屋は個人事業主に決定した。カフェテラス及び野外体験施設は前回までと同じ事業者となった。なお、野外体験施設の応募要件として新たに設定した、バーベキュー場におけるインターネット予約は、平成31年4月1日より運用が開始されている。

【質問等無し】

6. その他

【事務局】

次回委員会開催予定は8月頃で、それまでの間に部会の開催を予定している。日程は後日改めて調整する。

また、古賀委員が公益財団法人 松戸みどりと花の基金の理事長を退任されることに伴い、本日の委員会をもって、本委員も退任されることを報告する。

【古賀委員挨拶】

以上

【第5回松戸市都市公園整備活用推進委員会】出欠状況

| NO | 氏名 | 役職等 | 選出区分 | 出欠 |
|----|--------------------|-------------------------------|--------------------------|----|
| 1 | たしろ よりたか 田代 順孝 | 千葉大学 名誉教授 | 学識経験者 (都市計画) | 出席 |
| 2 | あかば かつこ 赤羽 克子 | 聖徳大学 心理・福祉学部 教授 | 学識経験者 (レクリエーション・社会福祉) | 出席 |
| 3 | みしま こうめい 三島 孔明 | 千葉大学 園芸学研究科 准教授 | 学識経験者 (環境教育学) | 欠席 |
| 4 | こうだ まりこ 幸田 麻里子 | 流通経済大学 社会学部 准教授 | 学識経験者 (観光学) | 欠席 |
| 5 | あび こ かおる 安孫子 薫 | 株式会社チャックスファミリー 代表取締役 | 学識経験者 (運営) | 出席 |
| 6 | ひらまつ れいじ 平松 玲治 | 一般財団法人公園財団 上席主任研究員 | 学識経験者 (公園管理) | 出席 |
| 7 | さとう るみ 佐藤 留美 | 特定非営利活動法人 NPO birth 事務局長 | 学識経験者 (市民協働・森林管理) | 出席 |
| 8 | とみなが ひさつぐ 富永 尚次 | 松戸商工会議所 理事 | 関係団体 (商工振興) | 出席 |
| 9 | こが ひろゆき 古賀 弘幸 | 公益財団法人 松戸みどりと花の基金 理事長 | 関係団体 (緑化推進) | 出席 |
| 10 | えのもと たかよし 榎本 孝芳 | 特定非営利活動法人 クリエイティブまつど工房 理事長 | 関係団体 (市民協働) | 出席 |
| 11 | ふくだ まさひこ 福田 勝彦 | 松戸市街づくり部 部長 | 本市の職員 | 出席 |